

福岡座禅道場俳句会六月句会結果

天 天

地

木の芽ごと匂いことなる初夏の風 (瑞雲)
 夏柑の皮むぐ音や唾を飲み (白堂)
 新緑や日ごと快癒の気配ある (宗道)
 初取りの胡瓜頂く夕餉かな (寶州)
 人 人
 浮き草をのつと顔出す雨の鯉 (真光)

44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

夏草は気ままに伸びて屋敷跡 (寶州)
 経行の影もなし梅雨の朽ち葉道 (白堂)
 枇杷の種つると飛ばす幼かな (淨淵)
 そういえばあったよなここかき氷 (真光)
 うなだれて午前三時の扇風機 (靈峰)
 百合展や匂ひの迷路となりけり (宗道)
 戻り梅雨常連客の腰重く (日下部)
 木の芽ごと匂いことなる初夏の風 (瑞雲)
 色錆びて梔子なほも香の失せじ (宗道)
 梅雨晴れ間川沿い退けば線路まで (ちせい)
 水底の影も流るるあめんぼう (淨淵)
 うす紅の雲とびとびに梅雨晴れ間 (真光)
 朝刊のぱさりと落ちて明易し (宗道)
 今朝の陽や身を浮きたてるいま四月 (瑞雲)
 夏柑の皮むぐ音や唾を飲み (白堂)
 行々子鳴くや賑やか今年又 (寶州)
 犬小屋が濡れてゐる庭明易き (靈峰)
 春夏のいりまじりくる風のあり (瑞雲)
 悪童の枇杷種飛ばす樹上かな (淨淵)
 音もなく石楠花の花華やいで (日下部)
 玉葱のスープ記録に出来無くて (ちせい)
 衣替えして街中が女学生 (靈峰)
 新緑や日ごと快癒の気配ある (宗道)
 溺れそう小さなちいさな早苗かな (寶州)
 夕暮れの雲間に残る春の空 (瑞雲)
 夏の雨後庭に大きな靴の跡 (ちせい)
 道の駅「山椒の実売ってます」 (日下部)
 顔文字を無理して使う桜桃忌 (靈峰)
 二年ぶりいつもの小川ホタル狩り (寶州)
 山頭火まね野ざらしのいちご食ふ (真光)
 黒南風やサッカー場を覆う声 (日下部)
 木の枝に鞆引っかけ枇杷を挽ぐ (淨淵)
 目はどこじやゴージャルの蔓網掴む (白堂)
 夏落葉網の下にも散り敷いて (ちせい)
 花菖蒲なべて紫丈高し (宗道)
 白南風や入居者募る旗ゆらり (日下部)
 俳優の台詞に合わす団扇かな (真光)
 駆けてきて「ほら翡翠が撮れたわよ」 (靈峰)
 頬湿る梅雨の空から日が差して (ちせい)
 梅雨冷えに温き湯嬉し作務上がり (白堂)
 梅雨休みやわらかき雲草萌ゆる (瑞雲)
 初取りの胡瓜頂く夕餉かな (寶州)
 青き枇杷じいじにせがむ幼かな (淨淵)
 浮き草をのつと顔出す雨の鯉 (真光)

6 4 6 1 2 1 3 3 4 5 1 3 3 1 1 2 4 3 7 4 1 2 1 8 5 3 5 1 8 1 1 3 3 3

次回7月句会の投句締切は
 19日(日)です。

